



やあ!

ya!

URL:<http://tia21.or.jp/>

E-mail:tia@tia21.or.jp



▲アラビア語で書いた自分の名前をみてもらう参加者



▲リーム氏がシリアの文化を紹介



▲アラブについて説明する3人(左からヌール氏、リーム氏、安藤氏)



▲アラビア文字カリグラフィーに挑戦!

「シリアとヨルダンの文化紹介セミナー」

国際理解セミナー「アラビア語ってどんな言葉? アラブの文化ってどんななの? ~シリアとヨルダンの文化紹介~」を3月26日(水)、とちぎ国際交流センターで開催し52名が参加しました。

講師は、シリアから宇都宮大学に留学しているリーム・アルセナウイ氏とヌール・アルバゼルバシ氏、元青年海外協力隊ヨルダン隊員の安藤未来氏の3名。前半は、リーム氏とヌール氏がシリアの基本情報、歴史的建造物、街の様子、伝統衣装・ダンス・食べ物などを、安藤氏がヨルダンの基本情報、観光名所、街の様子、難民キャンプの様子、自分の異文化体験などを紹介しました。後半は、アラビア語の文字・発音を少し学んだあと、自分の名前をアラビア語で書いてみたり、文字をデザイン化して描く「アラビア文字カリグラフィー」を体験しました。

参加者からはアラブの文字や文化について「興味を持った」「もっと知りたくなった」などの感想が飛び出しました。

2014年6月号

No.127

Spring

ようこそとちぎへ
国際交流団体紹介
TIA インフォメーション
JICA 情報局

平成26年度栃木県国際交流員 方倩さん(中国)
栃木タイムズ
ホームページがリニューアルしました!
派遣国から生中継! 協力隊のリアルトーク

「JICA 教師海外研修報告会

先生の感じた世界を教室に！」

平成 25 年度 JICA 教師海外研修報告会を 2 月 8 日（土）にとちぎ国際交流センターで JICA 地球ひろばとの共催で開催しました。

エルサルバドルコースに参加の馬場吉郎先生（宇都宮市立錦小学校※参加時は日光市立日光小学校）とカンボジアコースに参加の高橋貴子先生（栃木県教育委員会）のお二人に研修の様子や実践授業の様子についてお話していただきました。研修国で JICA 専門家の職場、青年海外協力隊の活動先等、ODA の現場を実際に訪れたことは、日本の国際協力の実情について理解を深めることに繋がり、また新たな発見があったと二人とも体験談を交えて説明していただきました。参加者からは現地の様子がよく伝わった、大人にも国際理解教育は必要、実際に体験したことを子ども達に伝える力強さ、難しさを感じ大変勉強になったという感想をいただきました。

今後も教室での国際理解教育を通して、子どもたちが日本と途上国の関係について知り、考える機会がさらに増えたらいいですね！

先生方ありがとうございました！



▲エルサルバドルの報告をする馬場先生

「日本語ボランティア情報交換会」

外国人に日本語を教えているボランティアの皆さんを対象とした「日本語ボランティア情報交換会」が 3 月 28 日（金）にとちぎ国際交流センターで開催されました。この情報交換会は、日本語の教え方の研修と情報交換の場として年 2 回実施しており、今回は教室活動体験も行うことから 25 名限定で募集し、県内各地からご参加いただきました。

講師に八重島 炎氏（宇都宮大学非常勤講師）を迎え、「動詞の世界をのぞいてみよう！」と題して、動詞の活用の整理と教室活動の体験を行いました。

いくつかの動詞を見て、どの動詞から教え始めたら学習者がわかりやすいか話し合ったり、動詞のグループ分けによる活用の規則性について学びました。

その後、学習者の発話の練習になるゲームを楽しく体験しました。参加者からはすぐに教室で活用できるとのお声をいただきました。



▲ゲーム体験をする参加者と八重島先生(中央)

「コンポスト作成指導の専門家をマレーシアに派遣」

平成 24 年度～26 年度にかけて実施している JICA 草の根技術協力事業「マレーシアにおける家庭廃棄物削減」のための専門家派遣が、2 月 15 日（土）～ 22 日（土）の 8 日間行われ、茂木町職員、TIA 職員、



▲児童・保護者が一緒になってコンポスト作成

JICA 栃木デスクの計 3 名がマレーシア・サラワク州クチン市のバコ村を訪問しました。

専門家派遣は 4 回目。今回は生ごみなどを活用し、たい肥を作るための「コンポスト作成の指導」に焦点をあてたプログラムです。まずバコ村内でコンポスト作成のための資材調査・収集を行いました。幸い良い状態の落ち葉、草、黒土、おがこなどを見つけることができました。次に、これらの資材を用いて「コンポスト作成ワークショップ」をバコ村小学校及び公民館で実施しました。小学校では児童・保護者 30 名が参加し、一緒に楽しみながらコンポストを作りました。また公民館では、住民 26 名が参加し、茂木町の専門家から熱心に作成方法を学びました。

ワークショップでは、「なぜコンポストを作るのか」についても



▲茂木町の専門家(左)からコンポスト作成方法を熱心に学ぶ住民

説明し、コンポストを作ることがゴミの削減につながることで、コンポストが作物等の成長に有益なことなどを学んでいただきました。

「防災訓練 多言語翻訳シミュレーション」

地震などの災害時に、外国人に必要な情報を多言語に翻訳して伝えるための防災訓練「多言語翻訳シミュレーション」を、栃木県内の 15 の市町国際交流協会と連携し、3 月 4 日（火）～ 6 日（木）に実施しました。

鹿沼市に直下型地震が発生したと想定し、同市に設立された「鹿沼市災害多言語支援センター」からの行政情報等の翻訳要請に、TIA と市町国際交流協会の協力者が翻訳するという内容で、この翻訳訓練に、英語 9 名、中国語 8 名、ポルトガル語 7 名、スペイン語 4 名、ベトナム語 4 名、タイ語 1 名、韓国語 1 名、フランス語 1 名、やさしい日本語 20 名の 9 言語 55 名が参加しました。

ようこそとちぎへ！ WELCOME TO TOCHIGI!

平成 26 年度 栃木県国際交流員（中国）



ホウ セイ
方 倩 さん

中国浙江省金華市出身。
金華市の人民政府において
入国管理業務を担当。今年の
4 月から来年 3 月まで県国際
課で国際交流員として勤務。

—はじめまして！ 方さんは中国では、日本で言う市役所にお勤めなんですか？

はい。金華市で職員の海外出張の手続きをしたり、友好交流先である栃木市への訪問団の随行業務などを担当していました。栃木市との友好交流は 20 周年を迎えますので、私もその間 30 回近く栃木市を訪問しています。回数は多いのですが、交流プログラムで子供たちを連れて来たりなどスケジュールがびっしり詰まった滞在なので、今回は一年間の滞在となるので栃木県をじっくり知る良い機会だと思っています。

—中国から交流プログラムに参加される方は多いですか？

一番多い時で 100 人の訪問に随行したことがあります。一度には無理なので、3 つのグループにわけて時期をずらしたりしました。栃木市長の表敬、小学校の訪問や日本人宅でのホームステイなどとても貴重な体験をしました。参加者は日本語がほとんどで

きないのですが、心を開いて交流しているので言葉は関係ないようです。毎回、中国人参加者は日本の方と楽しい時間を過ごしています。

—中国と日本の違いで何か気づいたことはありますか？

大学で日本語を学び、仕事でもずっと日本と関わってきましたので、日本人の習慣には慣れていますが特に驚くようなことはないのですが、中国の職場では昼休みを 2 時間取りますが、こちらでは 1 時間の昼休みを削って仕事をしている人もいますので大変だと思いました。また、中国というより金華市の習慣を紹介すると、私たちには名前が 2 つあるんです。一つは正式な名前、もう一つは親しい人が呼ぶ名前です。娘の幼稚園の提出書類にも名前を二つ書く欄があり、先生は親しい方で子供たちを呼んでくれるんですよ。

—今後の抱負は何ですか？

初めての日本の生活なので日本や日本語をもっと知り、日本人の友だちをたくさん作りたいです。日本と中国は近いですから、友好と平和のために交流をすることが一番大切だと思っています。仕事ではもちろんプライベートでも栃木県の方々と友好交流を頑張りたいと思っています。



▲愛娘の安安ちゃん(5 歳)と

国際交流団体紹介

「栃木タイムズ」



「栃木タイムズ」は 1988 年に「ザ東北線」として創刊され、1994 年に「栃木タイムズ」と改称された外国人のための多言語の生活情報誌で、私たちの団体名にもなっています。情報誌では、エッセイ、コラム、イベント情報などを掲載し、年間 10 回の発行で県内各地において無料配布しています。今年 2 月で創刊 26 周年を迎えました。

▲「栃木タイムズ」表紙

さらに、多文化共生関連事業として「外国人のための法律講座・交流会」を開いています。今年 4 月で 11 周年 43 回を迎えました。本講座は前半で、教育・就労・医療・福祉・国際結婚・育児など時代の流れに沿ったタイムリーなテーマを取り上げ、生活していくために必要なルールについてやさしく解説します。後半



▲第 41 回外国人のための法律講座・交流

では、参加者から出された悩みや問題点などについて全員で討論し、解決の糸口を探ります。テーマによって参加者の顔ぶれも変わり、外国人ばかり

でなく、日本人も参加し、毎回討論には熱が入ります。最後の交流会では和気あいあいの雰囲気の中で終わりを迎えます。

昨年は栃木タイムズ創刊 25 周年記念誌として、「新しい在留管理制度」についてのやさしい解説書「外国人のための新しい法律」を出版しました。法律講座の参考書としても使用しています。

国際理解、国際協力事業としては、コンゴ民主共和国において、内戦で死ぬ子どもの数よりも、汚い水を飲んで死ぬ人の数の方が多いうこ



▲アフリカ音楽コンサート 2013

とを知り、チャリティーコンサート「アフリカ音楽コンサート～コンゴにきれいな水を送ろう～」を 6 年間開いてきました。

今後は、NPO 法人北関東医療相談会と共催で、外国人と生活貧困者のための無料の健康診断事業「医療相談会」に力を入れていきます。

より良き多文化共生社会構築のために少しでもお役に立てたらと思っています。
(文：会長 鈴木美恵子)

